

【復興道路】宮古盛岡横断道路(一般国道106号)

宮古西道路の整備が進んでいます！！

～つながろう！復興のために 進もう！復興のその先へ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

1 (仮称)田鎖IC～(仮称)根市IC間に工事着手

県が「復興道路」として宮古市松山～根市間で整備を進めている宮古盛岡横断道路（一般国道106号）宮古西道路については、計画している3箇所のICのうち、(仮称)松山IC～(仮称)田鎖IC間でトンネルや橋梁、道路改良工事等を進めています。

(仮称)田鎖IC～(仮称)根市IC間については、これまで、関係地権者との用地協議や埋蔵文化財発掘調査等を進めて来ましたが、今般、(仮称)田鎖トンネル(L=326.0m)や(仮称)閉伊川横断橋(L=430.5m)を含めて大規模ロット工事として発注した「一般国道106号宮古西道路(仮称)田鎖トンネル築造ほか工事」が契約となり、今年の冬前から工事に着手します。本工事の着手により、宮古西道路全線で工事が全面展開されることになり、平成30年度の供用開始に向けて、事業が大きく進んでいます。

県では、今年を「本格復興邁進年」と位置づけ、復興を強力に推し進めており、宮古西道路の一日も早い完成に向けて、全力で事業を推進していきます。

【宮古西道路の事業概要】

県では、東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保するため、信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しています。宮古西道路は、宮古盛岡横断道路（一般国道106号）の一部として、三陸復興道路整備事業の「復興道路」に位置付けられており、国と連携して県が整備を進めています。



2 宮古市立花輪小学校の復興教育で宮古西道路を現場見学

平成27年10月21日、宮古市立花輪小学校の復興教育の一環として、5年生の児童を対象とした宮古西道路の現場見学会を開催しました。

現場見学会には、5年生の児童20名が参加し、宮古西道路の事業計画や整備効果等を学んだ後、工事が進む（仮称）松山IC～（仮称）田鎖IC間について、（仮称）松山トンネルや（仮称）長沢川橋等の工事状況を見学していただきました。

また、（仮称）長沢川橋の現場では、工事が終わったばかりの床版（舗装の下にある厚さ約20cmの鉄筋コンクリートの板）の上に児童の「復興への想い」をペイントしていただきました。

児童の皆さんからは、「未来のためにがんばってください!」、「がんばろう宮古!復興のために」、「広げよう 夢の道」、「つなごう 未来へ」などの温かく力強いメッセージをたくさんいただきました。

児童の皆さんが書いた「復興への想い」は、橋梁の舗装工事が進むと見えなくなってしまいますが、橋梁完成後も舗装の下に残り続けますので、宮古西道路を身近な社会資本として感じていただくとともに、児童の「復興への想い」が一層強くなることを期待しています。

宮古西道路の事業計画等を学ぶ児童



（仮称）松山トンネルの前で集合写真



（仮称）長沢川橋の床版にメッセージを記載



（仮称）長沢川橋の上で集合写真

